

白河市(東北圏ブロック)

【計画期間 21年3月～26年3月】

- ・江戸期 : 白河藩10万石の城下町として発展
- ・明治～戦前: 東北地方有数の馬の集積地として繁栄
- ・戦後～ : 福島県南地域の行政・経済・文化の中心

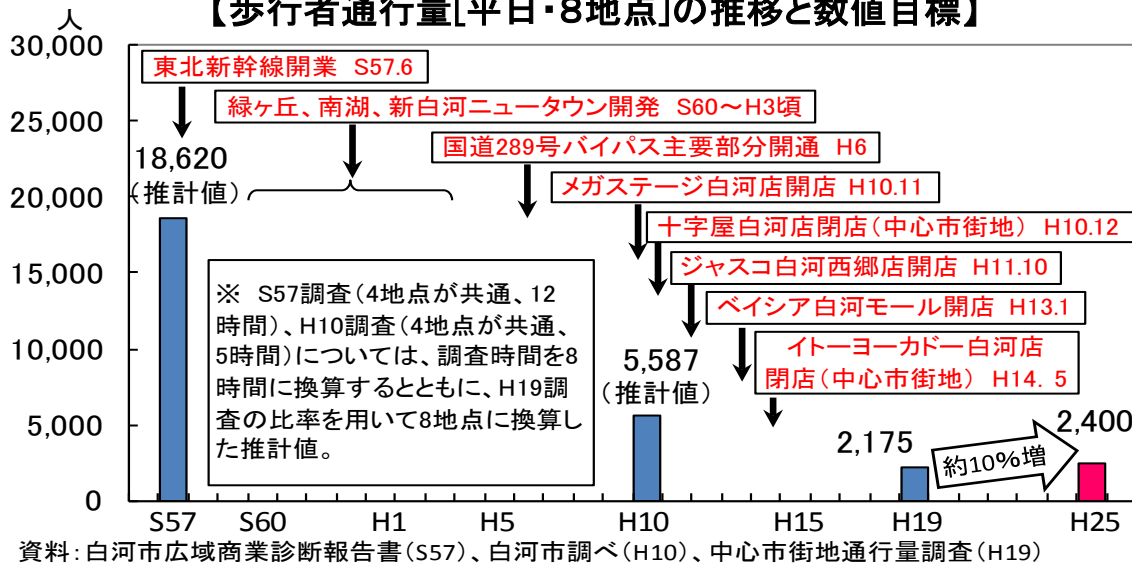
- 東北新幹線開業以後、中心市街地から約2kmの新白河駅周辺に新たな市街地の形成
- 郊外大型店の出店、中心市街地大型店の閉店等により商業機能低下
- 郊外部への居住の進展、高齢化の進行によりコミュニティ機能低下
- モータリゼーションの進行により歩行者数激減



目標	指標	現況値	目標値(H25)
城下町の快適な暮らしづくり	居住人口	2,999人(H20)	3,040人
匠の技とおもてなしの商店街づくり	小売業及び一般飲食店事業所数	203事業所(H20)	209事業所
市民共楽のふるさとづくり	平日歩行者通行量(8地点合計)	2,175人/日(H19)	2,400人/日

- 居住人口の減少
H16: 3,289人 → H20: 2,999人 (▲8.8%)
- 小売業及び一般飲食店事業所数の減少
H16: 223事業所 → H20: 203事業所 (▲9.0%)
- 平日歩行者通行量の減少
H10: 5,587人/日 → H19: 2,175人/日 (▲61.1%)

【歩行者通行量[平日・8地点]の推移と数値目標】



- 高齢者サービス付集合住宅の建設等により、街なか居住の促進を目指す。
⇒ 主要事業: ①旧農協会館・商工会議所会館住宅整備事業、②街なか集合住宅建設助成事業、など
- スーパーの誘致や歴史的建築物の活用等商業施設の整備により、魅力ある商店街形成を目指す。
⇒ 主要事業: ③歴史的モール拠点整備・蔵活用事業、④商業施設整備事業、⑤白河駅舎活用事業、など
- 図書館やイベント機能を持つ複合施設や回遊環境の整備等により、誰もが集い・楽しめる街を目指す。
⇒ 主要事業: ⑥白河駅前多目的複合施設整備、⑦山車会館・ポケットパーク整備事業、など

白河市中心市街地活性化基本計画の事業概要

魅力ある商店街の形成

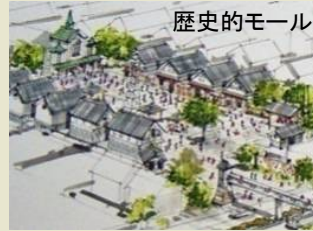
- 歴史的モール拠点整備・蔵活用事業(③)
旧奥州街道沿いに街なかへの導入口となる**歴史的モール**(飲食店街→テーマ**白河の食**)や回遊拠点となる蔵や町屋の集客施設([中町]パティオ、物販施設、チャレンジショップ→テーマ**伝統工芸・地場産品**、[二番町]展示施設、体験施設→テーマ**醸造・美術**)を整備。



蔵活用(中町)



蔵活用(二番町)



歴史的モール

- 商店街活性化事業
一店逸品パフレット、100円商店街、街なかギャラリーなどの展開

- 商業施設整備事業(④)
病院跡地に**商業施設(スーパー)**を誘致し生鮮食料品が身近で買える環境を実現。
- 白河駅舎活用事業(⑤)
大正建築の**白河駅舎**を改装し、**カフェ**と**観光土産館**を整備。
- 空き店舗家賃補助事業
チャレンジショップ、白河ラーメン大学を経た者の**中心市街地内空き店舗**への出店に家賃の一部を補助。



商業施設イメージ



白河駅

街なか居住の促進

- 住宅整備事業(①)
旧農協会館・商工会議所会館跡地を活用し、高齢者に配慮した**賃貸住宅(80戸)**を整備。
- 街なか集合住宅建設助成事業(②)
地上2階建、6戸以上の**集合住宅建設・リフォーム**に対する助成制度創設。
- 空室情報提供事業
宅建業者等と連携し、市のHPなどで**空室情報**を提供。特に**高齢者が入居しやすい住宅**をPR。



検討図

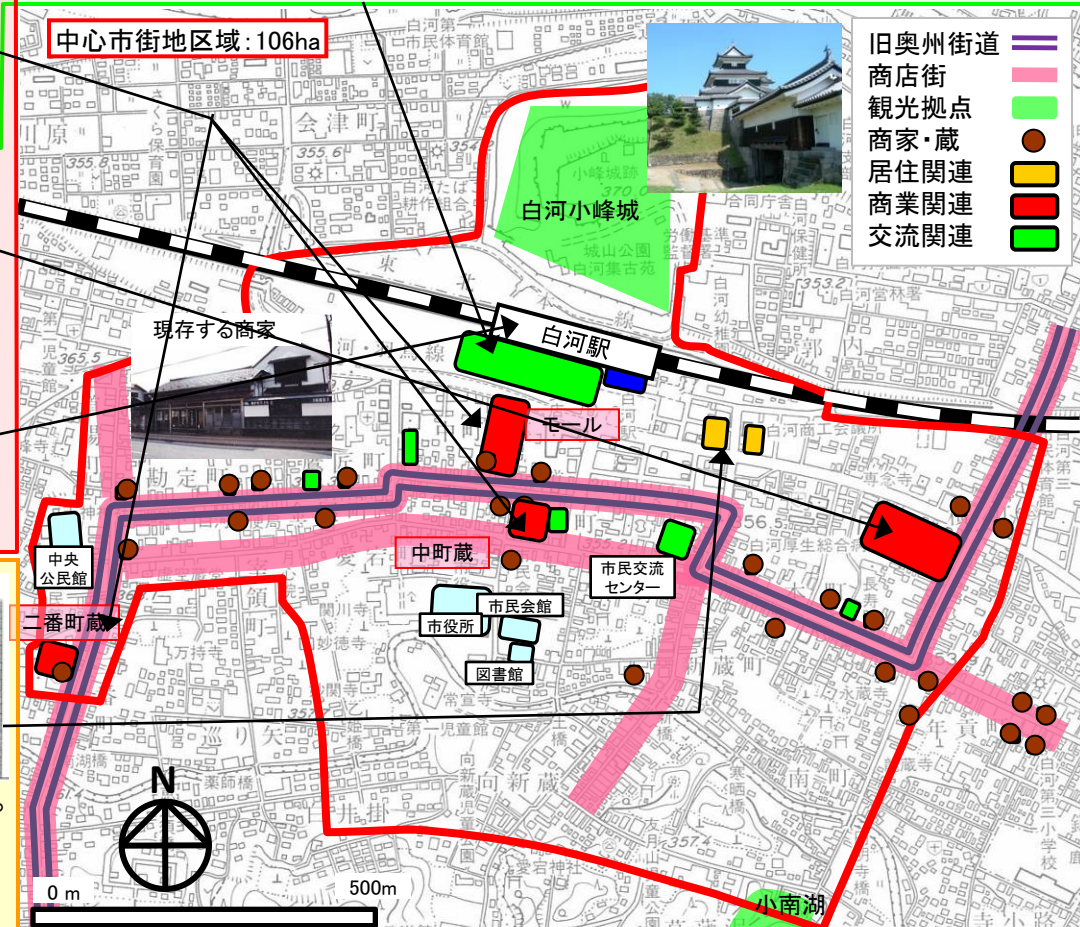
- 白河駅前多目的複合施設整備事業(⑥)
図書館、コンベンションホール、産業支援センター等を備えた複合施設を駅前を整備。



多目的複合施設

誰もが集い・楽しめる街づくり

- マイタウン白河(市民交流センター)活用事業
入居施設を見直し、**イベント等の多目的屋内スペースの確保**、子育て支援施設の拡充、障害者就業支援センター設置等の機能強化。
- 山車会館・ポケットパーク整備事業(⑦)
商店街の休憩所となる**山車展示施設**や**ポケットパーク**を整備。



中心市街地: 106ha

- 旧奥州街道
- 商店街
- 観光拠点
- 商家・蔵
- 居住関連
- 商業関連
- 交流関連

現存する商家

白河駅

モール

中央公民館

二番町蔵

中町蔵

市役所

市民会館

図書館

市民交流センター

0m

500m

小南湖